アートグループは、心理療法士の内藤あかね客員特別研究員（元甲南大学心理臨床カウンセリングルーム相談員）が芸術療法を行う活動として立案し、画家の椋田三佳先生とともに2000年から2013年まで活動を続けてきました。（「アートグループその運営方針と活動状況」甲南大学人間科学研究所紀要 2002年Vol.4）。

2012年から2013年の研究員ブログより、アートグループ活動や先生方が制作した作品のブログ記事をご紹介いたします。

1　コルクを使った造形（2013年11月28日のアートグループ）
2　秋の深まり（2013年11月14日のアートグループ）
3　モビール風のアート（2013年7月11日）
4　粘土をつかった造形（2013年6月27日のアートグループ）
5　新聞紙や雑誌をつかったコラージュ（5月9日のアートグループ）
6　「おはながみ」を使って(4月25日のアートグループ)
7　自画像（2013年2月14日のアートグループ）
8　「プラ板」とマンダラ（2013年1月10日・1月24日のアートグループ）
9　カレンダー制作（12月13日のアートグループ）
10　来年の干支にちなんで（11月22日のアートグループ）
11　秋の植物をテーマに（11月8日のアートグループ）
12　発泡スチロール球を使って（10月25日のアートグループ）
13　デコパージュ制作（10月11日のアートグループ）
14　勾玉作り（8月9日のアートグループ）
15　扇でアート（７月２６日のアートグループ）
16　ペットボトルを使って(6月28日のアートグループ)
17　キャンバスを使って（6月14日のアートグループ）
18　「渦巻き」をテーマに（5月24日のアートグループ）
19　カリグラフィーに挑戦（5月10日のアートグループ）
20　ミニキャンバスを使って(4月26日のアートグループ)
21　春の草花(4月12日のアートグループ)
22　アートグループはじまりました。

（2000年からの活動報告については、紀要の「アートグループ」研究活動報告をご覧ください。）

1.コルクを使った造形（2013年11月28日のアートグループ）

今日は100円ショップで売っているコースター仕様のコルク板とワインのコルク栓を使った造形をしました。彩色用にアクリル絵の具とグリッター（ラメ入りマニキュア）を準備。コルク板は薄手で簡単に切ったり貼ったりできる材質なので、ハサミとボンドも用意しました。コルク板は角のない正方形、六角形、円の３種類あり、つなげて何かを作るのもよし、重ねてもよし、切ったり穴を開けたりもできそう･･･と、参加者は気に入った形を手にとり、思案していました。この素材は過去にも使ったことがあるので、椋田さんがそのときの作品を例に特徴を説明してくださいました。

筆者が今回コルク板を見てふと思ったのは、六角形（正方形）を６つ並べて三角形に並べれば、クリスマスツリーになるなということです。そうして組んでいると、他の参加者からの「私もクリスマスのイメージが湧いた」と声が上がりました。結局、筆者は板を触っているうちにメッセージカードや付箋を貼っておく小さなボードを作りたいと思いつき、正方形２枚の間にコルク栓を挟むことにしました。アクリル絵の具で色を塗っていく工程では、思いの外絵の具がコルクに吸収され、地の色が出やすいということに気づきました。そこを面白く生かすと素敵になるのだなとメンバーの作品を見て思いました。他の参加者は思い思いに制作に励み、コルク板を５枚使ってシリーズの絵を描いた人、クリスマスのイメージを展開させた人などがいました。椋田さんは一番立体的な作品に挑んでいて、コルクの表面にも盛上げ剤を使って面白い効果を引き出していましたが、木工ボンドでの貼り付けは時間がかかり、ボンドの選択に一工夫が必要だと気づいたしだいです。

2 秋の深まり（2013 年 11 月 14 日のアートグループ）

今期二度目のアートグループでは、紅くなったサクラの落ち葉、実のついたヤマブドウやヤマゴボウ、紅葉したシナノキなどを素材にして秋の深まりを感じる一時を過ごしました。

講師の椋田さんから葉に墨や絵の具をつけて水彩紙や和紙に押し付けて絵を描くという方法の説明を受けた後、参加者は各々自由に制作をしました。この技法を実践してみてわかったのですが、葉脈は葉の裏側に浮き出ているので、葉の裏側に墨を塗って押し付けると葉脈がきれいに写ります。ただツタは表側に葉脈が浮き出ていたので、それはそれで「発見」ということになりました。墨をつけるときに使うスポンジには、口腔洗浄用の柄つきスポンジを利用しました。このグッズは椋田さんが制作に役立つと思って病院内のドラッグストアで見つけたときに閃いたそうです。

　参加者は各々気に入った葉を自由にアレンジして版画風のアートをつくっていきましたが、メンバーの中にはどうしたものかと思いながら進んだ人も、技法に嵌っている感じの人もいました。筆者はデザインをするような感覚で最初はシナノキ、二枚目はヤマブドウの葉をモチーフに今回の技法をつかって制作しました。葉によって硬さやしなやかさが違うので、そういう感触の違いも楽しめて面白かったです。墨汁が完全に乾ききらないうちに透明水彩で着彩したため、墨が溶け出て色が濁りました。同じ体験をして、その点が悔やまれるという意見もありましたが、味わいが出てよいという見方もできます。墨を使わず、絵の具だけで技法を試した人の作品には、微妙な色合いが美しく出ていて、一同「きれいねぇ」と言って感心しました。この技法は自然物の観察をしながらアートの制作ができるので、子供向けのワークショップなどにもいいなと筆者は思います。

[お知らせ]　PDF をご覧ください。

アートセラピーワークショップ

「円に描くこと」の意味

日時：2013年11月20日（水）　13:30～15:30
場所：奈良教育大学　管理棟別館（次世代教員養成センター）
http://www.nara-edu.ac.jp/campus_map/
講師：Carol Thayer Cox（米国アートセラピー協会認定アートセラピスト）
司会：市来百合子（奈良教育大学教育実践開発研究センター准教授）
参加料：無料　　定員：25名（要予約・先着順）

内容

C.ユングは、自らの精神的危機の時期、石の造形をしたり、絵を描いたりして乗り越えました。中でも、「円の中に絵を描くこと」を毎日行い、それがその時々の状況を反映したものであったと述べています。後にユングは、その「Mandala」の出現を、全体性に向けて動こうとするセルフ（自己）の元型の表れであるとしました。

ワークショップではこの「Mandala　Drawing（円の中に描く）」について、実習とともにその基本的な理解について学びます。（通訳あり）

講師

Carol Thayer Cox（キャロル・コックス）

アートセラピストであり、また教育者としてPratt Institute's School of Art and Design, George Washington Universityなどでアートセラピストの養成に長年従事されてきました。多重人格やトラウマ理論にも造詣が深く関連著書も多く出版されています。25年以上にわたり、様々な技法の中でもこのMandala drawingについて、個人の創造性と生涯発達的な観点から実践研究されてこられました。

申込方法

①名前　②連絡先電話番号　③e-mail　④専門職の方は所属先を明記し、11月18日までに下記のどちらかにe-mailでお申込ください（先着順）。折り返し、確認のご連絡を差し上げます。

申込先

奈良教育大学　教育実践開発研究センター
市来研究室　e-mail:　ichiki@nara-edu.ac.jp

期日が迫っていますが、11 月 20 日（水）に奈良教育大学にてアメリカ人のアートセラピスト、Carol Cox さんの講演があります。Cox 先生は筆者が米国留学時代の恩師であり、マンダラ・アートに造詣の深いアートセラピストです。時間は 13 時 30 分から 15 時 30 分で、先着 25 名までの予約参加となります。

参加ご希望の方はメールでお申し込みください。

（内藤あかね）

3.モビール風のアート（2013 年 7 月 11 日）

今回は「吊り下げるアート」をテーマに作品を制作しました。講師の椋田さんが参考にとモビール・アートと紋切り型のテキストを持参されたので、アイディアをもらうこともできましたが、画用紙、色紙、ワイヤー、吊り下げ用の糸を前にして参加者全員思い思いに制作を始めました。モビールというとアレクサンダー・カルダーの作品のように棒やワイヤーでモチーフをつなげて動きを面白くする工夫が必要に感じますが、そこまでしなくても吊り下げることをイメージしながら制作していると、何かしら面白い物が出来るものだなというのが筆者の今回の感想です。講師の椋田さんは本職の画家なので、白い画用紙を模りしたものに水彩絵の具で着彩して本物のようなカキ氷のモチーフをつくりました。赤ちゃんへの贈り物として、赤ちゃんが識別しやすい配色のモビールをつくった人もいました。日本には夏になると吊り下げて使うもの（風鈴、七夕飾り等）が多いなと考えていた筆者は涼にもつながる紋切り型をテキストから選んで切り出してつなげました。

最後に三極の枝に全員の作品を吊り下げて鑑賞しましたが、こうしたディスプレイの工夫一つで作品が生きるものだと改めて思った回でした。

次回のアートグループは 7 月 25 日に行いますが、これが前期の最終回となり、後期はまた 10 月から開催します。

4.粘土をつかった造形（2013 年 6 月 27 日のアートグループ）

今回は少し期間をあけての開催となりました。紙粘土と石塑粘土に加え、ワイヤー、発泡スチロール球をテーブルに並べ、使いたい素材を選んで制作に取りかかれるようにセッティングしました。粘土はどれも白色で色を塗ることができるので、アクリル絵の具も用意しました。

初め紙粘土は軽量粘土だけをテーブルに置いていましたが、参加者の一人が重さを確かめ、軽量粘土と石塑粘土の中間位の重さがいいと言ったので、普通の紙粘土も出しました。粘土は種類が多く、質感も多様です。その日の自分にしっくりくる重さや質感を探っていくのも制作過程では大切な一要素でしょう。筆者は石塑粘土の感触が好きなので、久しぶりに触れるのが嬉しく、「いつもは使いこなせない粘土を今日は１パック全部使ってみよう」と思ってこね始めました。粘土制作は形ができやすい反面、やり直しが効く分、試行錯誤の多くなりやすい画材だと思われます。実際、どの参加者も途中でいろいろな難しさ（発泡スチロールに貼った粘土が剥離する、なかなかイメージが定まらない等々）を体験しながら制作したようです。出来上がった作品は、どれもただ置いて眺めるだけでなく、触って遊べる物になっていて面白いと感じました。

5.新聞紙や雑誌をつかったコラージュ（5 月 9 日のアートグループ）

今期 2 回目のアートグループでは、前回に引き続きコラージュをしました。前回使用したおはながみもテーブル上には置きましたが、今回は新聞紙（日本語版と英語版）と雑誌を主な素材としました。台紙には白い画用紙と色画用紙の他に無地のクラフト紙の紙袋を用意しました。課題については細かい制限は無く、これらの材料を使って自由に制作するというものでした。

雑誌や外国語新聞の写真やイラストを切り抜いて貼り合わせていった人が多く、シェアリングでは「好きなものを貼っていった」とか気になった写真をアレンジしたといった説明が聞かれました。発言からは、貼りながら今の自分の心境や置かれた状況を省みる体験をしていた様子も窺え、決して表面にあらわれた内容だけの作品ではないのだなと感じられました。

筆者は最初に手にした 2 年前の秋の新聞を眺めながら、ニュースや記事のヘッドライン、広告のコピーに目を奪われたのをきっかけに、気になる言葉や写真を切り抜いていきました。2 年前といえば東北大地震のあった年だなあと思うと、筆者が見た日の新聞（ページの一部欠けていましたが）には震災関連の記事がほとんど無いことに気づき、そのことに引っかかりを覚えて今年の新聞も見てみようと思い立ちました。

あえて過去の新聞と現在の新聞を使ってコラージュをすることで、ここ２年という時間における自分と世界の変化を振り返る体験ができたことは大変面白かったです。同時に、見つけたい言葉や情報が見つからないことへのフラストレーションも体験した制作でした。（内藤あかね）

6.「おはながみ」を使って(4 月 25 日のアートグループ)

新年度初回のアートグループとなった今回は、「おはながみ」（＝ティッシュ・ペーパー、ソフト・ペーパー）を使った自由制作を課題としました。「おはながみ」とは、よくラッピングの内包装に使われる柔らかい素材の紙です。幼稚園や小学校でクシャクシャにした紙花を作った覚えのある方も多いと思います。20 色以上のおはながみと四つ切サイズの白画用紙、液体のり、平筆をテーブルに並べ、後は参加者が気持ちの赴くままにコラージュをしたり立体的な造形を貼り合わせたりしました。

おはながみは千切ると独特の風合いが出るので、面白いコラージュが出来ることは知られています。ただ、思うように千切るのは難しく、繊維の流れに反した千切り方をすると、うまく行かずに作り手をイライラさせることも多々あります。今回はハサミを使って直線的なラインを効果的に出した人もいましたし、紙に水で形を描いて型抜きする手法を使う人もいて、ちぎり絵とは異なる表現もたくさん見られました。貼り方もパーツを載せた紙の上から筆で水溶きのりをベタ塗りしていく方法が簡単なのですが、小さなパーツの上に白い紙を被せて、その上から糊を塗るとか、端だけにのりを付けて貼り合わせることで全体に透明感を出すとか、工夫がいろいろと見られ、シェアリングではお互いに感心しきりでした。

一人 2 枚以上制作したので、一人の作品の中にストーリーが生まれたり、対照的な作品を作って調和が生まれたりと、連作することの面白さも見られた回でした。

7.自画像（2013 年 2 月 14 日のアートグループ）

今期の最終回、「自画像」をテーマに絵を描きました。今の自分の顔を鏡でまじまじと眺めることは、人によってはあまりないことかもしれません。自分の顔を細部まで見て絵にするという作業の過程では、面白さ、辛さ、発見や驚きなどいろいろな心の体験をすることになります。今回は参加者全員絵を描くことに慣れていたので、淡々と制作に打ち込みましたが、人によってはインパクトの強い課題だろうなと想像します。

自画像と言っても似顔絵的に雰囲気を捉えて描くこともできますし、顔の特徴に注目してディテールに凝ることもできますし、心理的な状態を描くこともできます。今回は、そうした自画像が描かれたように思いました。アートグループでは、以前動物にたとえて自分を描くという課題をしたことがあり、そのときには願望を絵にするとか、少し自分をシニカル・コミカルに描くという試みもありましたが、今回は 2 時間かけて正面から自分を見つめて描いたという印象です。

さて、来期のアートグループですが、4 月 11 日（木）から始まります。これまでどおり、7 月まで第 2・4 木曜日 13 時～15 時で行います。参加費は一回 1000 円で、時折材料費（～300 円程度）を別途頂戴するときがあります。初めて参加をご希望の方は、甲南大学心理臨床カウンセリングルーム 078-453-6183 まで一度お問い合わせください。（内藤あかね）

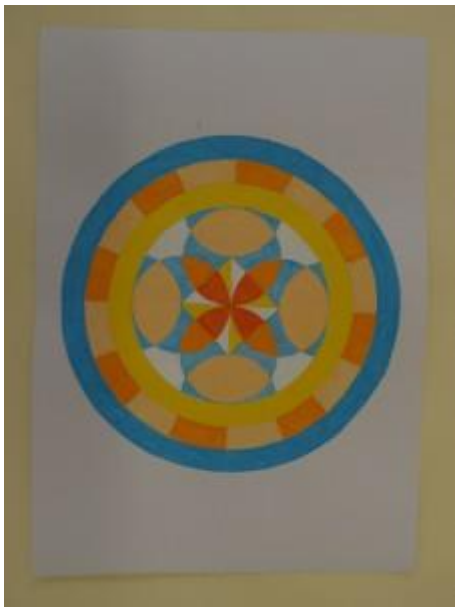
8.「プラ板」とマンダラ（2013 年 1 月 10 日・1 月 24 日のアートグループ）

1 月 10 日は年度途中の回とは言え、お正月休みを挟んで休み気分が抜けにくい時期でもあるということでエクササイズ的にプラスティック板を使った制作をしました。通称「プラ板」に油性ペンで絵を描き、オーブントースターで加熱して縮めるという簡単な工作を子どもの頃に体験した人は多いと思います。筆者も小学生のときに初めてプラ板作りをしたときには、板が縮まる現象が面白かったり、縮むことによって描いた絵が実際より少し精巧に見えるのに驚いたりして、何枚も続けて作ったものでした。当時より画材も進化し、白地の板に色鉛筆で描くことができるというプラ板も登場したので、今回は透明な板とともに使用してみました。

この制作では、材料の性質上イラストタッチで描く傾向が全員にありました。筆者は出来上がった作品をどう使うかという実用性を重視したのですが、他の人たちは出来上がりよりイラストを描くことを大切にしているように見え、面白い違いだと感じました。コミカルな作品、可愛い感じの作品と、作り手が普段あまり表に出さない一面が顔を出している印象を受けました。それにしてもなぜ加熱すると縦横同じような比率でプラ板が縮むのか？そういう方向に関心が向く人が出てきてもよさそうな課題でした。

1 月 24 日は、椋田さんが持参した曼荼羅の様々な模様を紹介したワークブックを参考に制作をしました。一般に多様な要素を統合し構成するのが曼荼羅ですが、今回は手本を置くだけで「曼荼羅とは何か？」ということは説明せず、自由に作り始めました。結局手本をコピーしたものに色を塗ることもできましたが、全員オリジナルな模様に挑戦しました。

筆者は幾何学的なイメージと配色に重点を置きました。一方、関連性のある具体物を均等に配置していく曼荼羅や植物のイメージが幾何学的に描かれた曼荼羅もありました。いずれにせよかなり集中を要する制作過程でしたが、全員静かに作品と向き合い自分の時間をもてたという印象の回でした。



9.カレンダー制作（12 月 13 日のアートグループ）

今回は恒例のカレンダーづくりをしました。来年一年の暦が印刷された和紙を台紙にして、じかに何かを描いてもいいし、貼り付けてもよいという課題です。

筆者自身はこの課題を何度も経験していますが、1 年間同じ絵を見続けることを考えると、何を題材にしてよいのやら…ずいぶんと悩んで、ようやくモチーフを考え制作にとりかかるとタイムリミットということが何度もありました。そこで、今回は必ず完成させることを自分の目標にして、前回もモチーフとして採り上げた巳（へび）を描くことにしました。参加者でも習作を重ねて本番に望む人、下描きを丁寧に描く人がいて、今回はいつにもまして静かに制作に打ち込む雰囲気が醸しだされていました。

今回は、和紙をカッターで切って裏に千代紙や和紙を貼るとか、紙ナプキンを切り張りし、さらにちぎった色紙を重ねていくというコラージュや貼り絵の手法を面白く使った作品も見られました。カレンダーというしっかりとした枠がある中で、各自が思い思いに冒険した回でした。

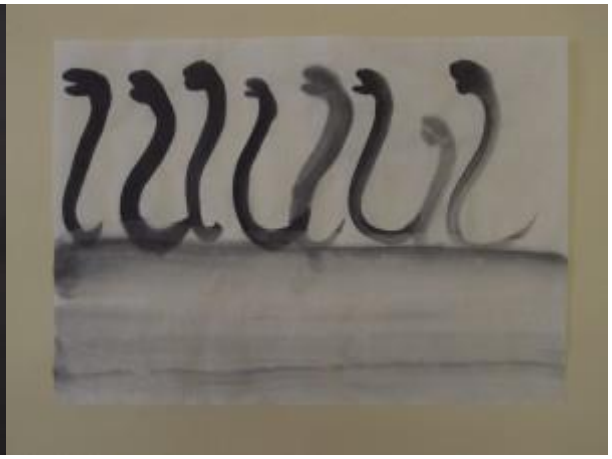
今年のアートグループはこの日で終わり。後期は 1 月 10 日、24 日と 2 月 14 日の開催を予定しています。（内藤あかね）

10.来年の干支にちなんで（11 月 22 日のアートグループ）

今回はヘビをモチーフに自由に制作をしました。来年が巳年だからということですが、干支をモチーフにするのもこのグループでは恒例です。1 年の終わりや始まりを意識することは、ともすれば毎日を過ごすことに必死で時間の大きな流れを意識することの少ない人にとっては、意義のあるテーマなのではないかと思います。講師の椋田さんは毎年干支の土鈴と自作の墨絵を参考として持ってきてくださるのですが、今回はそれらをヒントにして粘土や水墨に挑戦する参加者が多かったです。

筆者は一人異なった趣で、たまたま最近「のび太の創世日記」という映画の DVD を観たことを思い出し、「ヘビならアダムとイブの物語だな」と考えながら絵を描いてみました。描き始めてみるとどう描いてよいかわからず、ずいぶん苦労しましたが、普段なら絶対に描こうと思わないテーマなので、こういう体験も面白いものだと思いました。

粘土作品の中にはワイヤーをうまく使ってヘビのぐるぐるっとした感じを出した作品、ヘビとその仲間たちという雰囲気の作品群などがありました。墨絵をした人は、何枚も習作を描きながら、自分の描きたいヘビのイメージを見つけていた様子で、何枚も描くことの意義を改めて感じさせてくれました。（内藤あかね）



11.秋の植物をテーマに（11 月 8 日のアートグループ）

今回はかぼちゃ二種類、山帰来（＝サルトリイバラ）、山葡萄をテーブルに広げ、花瓶に挿したコスモスと共にモチーフとして並べました。秋に実を付ける山帰来と山葡萄はつる性の植物であまり目にすることのない植物ですが、形の面白さや色の美しさが絵のモチーフにぴったりだと思いました。かぼちゃもこの季節、観賞用にいろいろな大きさ、形の物が出回っていますが、小ぶりで表面のぼこぼことしたところが描くのに面白そうに感じました。画材は水彩絵の具、ソフトパステル、墨、水彩クレヨンなどを用意し、紙も画用紙のほか水彩紙や半紙を置いて参加者に自由に選んでもらいました。皆、どの画材を使おうか、どのモチーフを描こうかと思案しながら制作を開始しました。

2 時間弱でこれだけの素材を描くというのは大変なことですが、参加者は思い思いに自分が素材から受けた印象や連想したイメージを形に表していました。私はスケッチをしている段階で写すことにエネルギーを注ぎすぎて、最後は一通り色を塗るだけで精一杯でしたが、モチーフ全体を大まかにスケッチして全体のイメージを表現している人がいたり、そこにはない風景やアイテムを描き込んで、オリジナルなイメージを描いている人がいたりと、同じものを見ても描き方は十人十色だなとシェアリング時には感心しました。

熱心に制作していたので皆さん口数がいつもより少ない印象でしたが、季節のモチーフを見ながらかぼちゃ談義に花が咲いたりして楽しいお喋りも聞こえた回でした。（内藤あかね）

12.発泡スチロール球を使って（10 月 25 日のアートグループ）

今回は小さな球や卵型発泡スチロールを使った自由制作を試みました。講師の椋田さんが「面白い物が手に入った」というプラスティック製のジョイントおよびネジと表面に光沢とざらつきのある発泡スチロール球を持参されたので、普通の発泡スチロール球と併せて使用しました。他の材料としてアクリル絵の具、和紙やフェルト、モール、竹ひごなどを、道具類はハサミやカッター、ニッパーを置いて着彩や造形ができるように準備しました。

椋田さんが制作のヒントにと持ってきた和紙を張り合わせた作品、発泡スチロール球の外袋に印刷されていた人形を参考に、何を作るか参加者はそれぞれ材料を手に取りながらしばし考える時間を要しました。私は「竹ひごと球を使ってモビールを造ったら面白いんじゃないか？」と思いついたのですが、それは恐らく丸カン様のネジを見て、釣り下がった球のイメージが最初に沸いたからです。球は光沢の無い普通のタイプを選び、表面をアクリルでべったりと塗って模様を描いていこうと作業を始めました。横では椋田さんが光沢ありの卵型の球に色を塗ってアヒルを作っていました。和紙を破って丁寧に貼っていく人、羊毛を貼り付ける人、フェルトを切り張りする人、モールを細かく突き刺していく人･･･初めはどうしようか迷った人でも画材を見たり触ったりするうちに何かイメージやアイディアが浮かんだようです。

今回つくづく思ったことですが、どんな課題が出るのかわからずにグループに参加して何かを作るというのは簡単なことではありません。でも、学校や職場に行ったり、買い物にモールやデパートに出かけたりしても、本当のところ何をするのか、誰と何を話すのかはわからない訳です。今回のように、課題に沿って絵を描くとか、完成作品がイメージしやすい課題とは異なる造形課題の場合、そのチャレンジ度はずいぶん高いものだと感じました。（内藤あかね）

13.デコパージュ制作（10 月 11 日のアートグループ）

夏休み明けで久しぶりのアートグループ開催だったので、肩の凝らないテーマでということもあり、「デコパージュ」をしました。デコパージュとは、模様や色の付いた紙を薄くしたものや薄紙、布などを板やガラス等に切り貼りし、コーティングを施して装飾する手工芸の一技法です。アンティークの家具や小物などにも見られますね。 個人的な思い出ですが、中学生のときに一度デコパージュを制作したことがあります。当時は切り抜いた絵を薄くする作業がとても難しく感じられ、またコーティン剤がなかなか乾かなくて小品一つ作るのにずいぶん時間がかかった記憶があります。その点、今日ではデコパージュ専用の質の良い糊やコーティング剤があって、貼り合わせに使う材料を工夫すれば 2 時間でも作品が仕上がります。とは言えなかなか高価な画材なので、このようなグループ活動で体験できるのは意義のあるところです。

用意した材料はデコパージュ用糊とコーティング剤の他に絵柄入りの紙ナプキン、包装紙、お花紙、新聞紙（英字新聞を含む）、ガラス容器、木箱です。まず土台にする物を決め、張り合わせる絵を選びます。コラージュを立体の上に制作していく感じで、何種類もの模様や色を重ねて貼っていくと面白い効果が生まれるという椋田さんの説明があったので、皆じっくりと材料を選びました。無地の紙に加え、文様柄、和柄、花柄、クリスマス柄等々多様な模様から気に入った部分を切り取るのに参加者全員集中していたように思います。貼り合わせるときは、糊を平筆で塗って紙を載せ、上から別の筆で押さえていくときれいに貼れました。大きく時を貼って上から小さな切抜きを貼っていく人、土台の面ごとに模様を変えて貼っていく人、大胆な図柄をメインに持ってきて貼る人、パッチワークのように同じ形の紙をランダムに貼る人･･･コラージュの仕方も人それぞれです。最後にコーティング用のニスを塗って完成ですが、全員異なった趣の作品が仕上がりました。シェアリングでは皆がどのような工夫をして作品ができたかを聴き、季節感を大事にしたとか、何を飾るかを想定して作ったとか、土台の形を生かそうとしたなどのコメントがあって面白く感じました。（内藤あかね）

14.勾玉作り（8月9日のアートグループ）

通常なら7月の第4週に前期の最終グループを行うはずが、計画停電予定の影響で8月の第2週に延期になりました。暑さも最盛期で、大学も人気が少なくのんびりとした雰囲気の中、なぜか今回は「勾玉」制作が課題でした。椋田さんが画材屋さんで見つけたという勾玉作りのキットには、3.5×3.5×1cm大の白い蝋石のような石と紙やすりと耐水ペーパーが入っています。紐を通して首から下げられるように石にはあらかじめ小さい穴が開いており、紐も同梱されていました。添付のパンフレットには実例の写真も付いていたので、正直言って私はそうオリジナリティーを発揮する余地は無いと初めは思いました。 制作の手順ですが、まずはデザインを考えて石に下描きをし、その形になるようにやすりをかけていきます。

柔らかい石なので結構簡単に削れるのですが、削りすぎると思い通りの形にならないので、逆に注意が必要です。また、大きなカーブは削りやすくても、細かい所はやすりを折ったりして工夫しなければ、きれいには削れません。日頃ここまで細部に注意を払って作業をすることのないメンバーは、少し疲れを感じたようです。石の粉がたくさん出るので、埃で鼻や喉を痛める人が出ないか気になりましたが、大丈夫でした。私自身は石の粉の手触りのよさを楽しみました。削り終わって耐水ペーパーに水を付けて磨きをかけると石はきれいな肌を見せ、その独特の表情に触れることは参加者全員にとって心地よいプロセスだったように見受けられました。石の土台が完成すると油性のカラーマーカーで色を塗ったり模様を描いたりします。漢字一文字を書いて着彩した人、多色遣いをした人、絵付けはせずに石の質感を残した人と、どれ一つとして同じでない作品が仕上がりました。石を御守りとして身に付ける人を巷で多く見ますが、その気持ちがわかるなと思ったのが私の感想です。　さて、後期のグループ予定ですが、10月11日から来年2月14日まで第2・4木曜日の13～15時に計8回実施いたします（12月は第2木曜日のみ実施）。もし、このグループ活動に参加されたいと思われる方、ご関心をもたれた方は、まずは甲南大学心理臨床カウンセリングルームの内藤までお電話をください。電話は０７８－４５３－６１８３です。（内藤あかね）

15.扇でアート（７月２６日のアートグループ）

今月は、第二木曜日のグループ開催時間帯に計画停電が実施される可能性があったため、第四木曜日のみの開催となりました。その分、通常は開催しない８月の第二木曜日９日に今期最終回のグループを予定しています。 今回の課題はほとんど毎夏恒例になっている団扇を使ったアート制作です。講師の椋田さんは風鈴も用意してくれたのですが、参加者全員団扇を選びました。節電の夏だからこそということでしょうか？緑黄色、水色、亜麻色、クリーム色和紙を張った、何も手を加えなくても美しい団扇にさて何を描こう、と一同しばらく思案していました。自然と花火大会の話になり、椋田さんは花火のモチーフで描き始めました。

カラーテックスで花火の毎散る感じを効果的に表現しているように思います。他の参加者は消しゴムはんこのテキストや図鑑を参照してモチーフを探し、アクリル絵の具や和紙を使って形にしました。他の参加者が朝顔や鳥などを主題に選ぶ一方、私は猛暑を乗り切るためのビタミン剤だと思って夏の果物を描きました。

　団扇は骨があるので思うように筆が滑らず､アクリル絵の具を使っての描画には思いの外苦戦しました。一つ一つのモチーフを各々独立した感じで「パキッ」と描きたかったのに、じっくり描いている間に遠近感が出てしまい、納得のいかない構図になりました。

各パーツは気に入っているので、これもまた勉強だと思うことにします。　シェアリングで全員の作品を並べ鑑賞していると、モチーフを描くのに図鑑などを参照しても、やはりアレンジを加えることで作り手の大事にしたいと思ったイメージが反映されるものだと実感しました。（内藤あかね）

16.ペットボトルを使って(6 月 28 日のアートグループ)

今回は、ポートタワーの形をした空のペットボトルを使って作品を制作しました。このボトル、甲南大学の卒業生が考案されたそうですが、側面が小さな長方形の集合状にデザインされていてカットグラスの瓶と見紛うような雰囲気をもっています。

講師の椋田さんがペットボトルを装飾するために持参された素材は、花活けなどに使うガラス玉とプラスティック製の色石、スパンコール、羊毛、貝殻、モール、ジェルジェム、グリッターとマニキュアで、それにセロファン、両面カラーの折り紙、油性マーカー、アルミ箔を加えてテーブルに広げました。参加者はその中から好きな素材を選んでボトルに入れたり、ボトルの外側に貼ったり塗ったりしてオリジナルな物へと仕上げていきました。

　この作業は一見単純なようですが、ペットボトルは口が狭く、胴体にくびれがあるため思った位置にパーツが収まらないことも大いにあり得ます。実際、スパンコールをバランスよく配置するためか何度もボトルを振っている人や一度出来かけた作品の中身を全部出してやり直した人もいました。それでも参加者は思い思いに色合いを考え、イメージを膨らませながら熱心に制作しました。カラフルでキラキラした素材、クシャクシャ丸めたりぼんぼん石を落としたりと五感を楽しく刺激されたせいか、いつもの回より会話も多かった気がします。

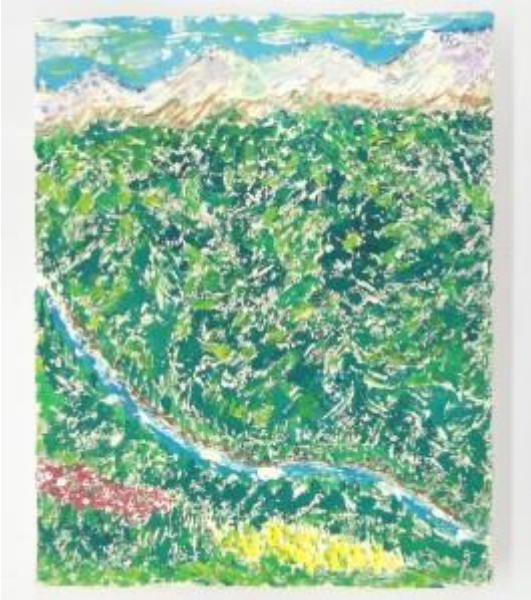
シェアリングでは、夏や海のイメージで作った人という人が多かったのですが、特定の色や素材の生かし方にそれぞれ注意を払っている様子が窺えて面白く感じました。似たような素材を使っていても出来上がりはかなり異なっていた点も興味深かったです。（内藤あかね）

17.キャンバスを使って（6 月 14 日のアートグループ）

前々回のセッションでミニ・キャンバスを使ったアートをしましたが、今回は 3 号サイズ（22cm×27.5cm）を使って描画・造形しました。キャンバスが初めてのメンバー、スタッフ、見学者は、少し怖気づいた感じで「何を描けばいいかなぁ」などと困惑した様子でした。しかし、椋田さんが前々回の自作品を見本として提示し、モルディング剤の紹介をすると、興味をもって各々制作を始めました。

私（＝内藤）は現在マイブーム中のトラを描きたいとアイディアだけすぐに浮かんだのですが、どう描けばよいのかなかなかイメージが定まらずにいました。ふと見ると皆が気持ちよさそうにモルディング剤を使っています。トラの体毛をモルディング剤で表現できるかも?!と思ったらイメージがはっきりしてきて制作が進みました。

他のメンバーの作品は水のイメージがどこかに入っている物が多く、暑い季節の到来の影響を感じました。今回は、ビーズや貝殻やタイルなど、3 次元素材をアクセントとして有効に使った人が多く、モルディング剤の触感を含め、触覚に訴える回になったように思います。制作後には「楽しかった」というコメントを複数聞きました。 ところで、アートグループ講師の椋田三佳さんが６月３０日から７月５日まで個展を開かれます。 グループでも時々ご指導いただいている水墨画の作品を展示されます。詳細はギャラリーの HP をご覧ください。 http://www.tor-gallery.com/gallery/2012/06/1206301f/ （内藤あかね）



18.「渦巻き」をテーマに（5 月 24 日のアートグループ）

文字通りの渦巻きから渦巻き様の構図を含めての「渦巻き」をテーマに制作しました。講師の椋田さんに日本の伝統的な渦巻き文様について書かれた参考文献とご自身の試作品を見せてもらい、参加者はそれぞれにイメージを膨らませて取り掛かりました。多くの人が伝統文様をベースに切り紙を制作した中で、テキストから触発された花鳥風月のイメージをオリジナルな形で描いた人もいました。

私（＝内藤）はテキストにあった巴紋のヴァリエーションの多さに驚き、この伝統柄を一度描いてみたいと思って色画用紙に大きな三つ巴を配置しました。黒いマーカーで大胆に塗っていると力が湧いてくる感じがしたので、そのことをシェアリングの時間に話していたら、巴が太鼓の文様だったことを思い出しました。

昔の人はこの柄をスピリチュアルなイメージとして捉えたのでしょうね。　私が制作中にふと思い出したのは、21 日にあった「金環日食」です。椋田さんは日食とは関係なく今回の制作課題を選んだそうですが、自然の見せる特別な輪の美しさに沸いた日だったことを考えると縁を感じました。（内藤あかね）

19.カリグラフィーに挑戦（5 月 10 日のアートグループ）

アートグループの講師、椋田さんは仕事でカリグラフィーを使ったウェルカムボードの制作をすることがあるそうです。アルファベットの書道といった趣のカリグラフィーを一度グループでも体験してみようと、グループにカリグラフィー用に開発されたマーカーとテキストを持参されました。

「ハリー・ポッター（映画）のポスターでもお馴染みですね」と椋田さんにペンの使い方を示してもらい、後は参加者がテキストのコピーを思い思いの色遣いでなぞり、「難しいなあ」などと言いながら書き進めていきました。今回はイタリック書体とアンシャル書体の 2 種類で、”happy birthday”や”Thank you”など、後に実用で役立つような言葉を中心に手習いしました。

　初めは恐る恐る書き始めた参加者も慣れてくると少しずつ思いきりがよくなり、背景のイラストを含め配色に凝ってみたりと次第に個性を発揮していた印象です。最後にはテキストを離れて葉書を用いて制作をする人もいました。

今

　今回からグループのスタッフとして臨床心理士の波田さんにも参加してもらうことになりました。スタッフが 3 人になりグループの器がしっかりした感じです。この HP を見て参加にご興味をもたれた方、是非ご一報くださいね。（内藤あかね）

20.ミニキャンバスを使って(4 月 26 日のアートグループ)

第 2 回では、ミニチュア（7cm×10cm、7cm×7cm）のキャンバスにアクリル絵の具で描画をしました。本格的な油絵の疑似体験といった趣もありましたが、サイズは小さくてもキャンバスはキャンバス。参加者同士、これを飾ったらどうなるかしらなどと想像しながら、その意外な存在感の大きさに興味を惹かれました。図鑑を参考に精緻な描写を心がけた作品、モルディング（盛上げ）剤と練り消しゴムを使って立体感ある表現を目指した作品が生まれました。（内藤あかね）

21.春の草花(4 月 12 日のアートグループ)

4 月になり、新年度の活動が始まりました。春は草花の美しい時期なので、よく花をテーマに描画をします。今年度第 1 回のグループでは、用意されたたくさんの種類の中から、参加者が自由にモチーフを選んで水彩画を描きました。春休みを経て久しぶりのアートの時間。少し疲れを感じるほどに集中してじっくりと取り組めたと思います。（内藤あかね）

椋田三佳作　　内藤あかね作

22.アートグループはじまりました。

4 月 12 日（木）から、画家椋田三佳先生をお招きしてアートグループがはじまりました。

当グループで行っている活動や先生方が制作した作品をこのブログで紹介していきたいと思います。

アートグループは、心理療法士の内藤あかねが芸術療法を行う活動として立案し、画家の椋田三佳とともに 11 年間活動を続けてきました。「アートグループその運営方針と活動状況」（紀要 Vol. 4，2002 年）。これまでの活動について紀要からご覧になれます。（2011 年の活動報告）

随時参加メンバーを募集しておりますので、お気軽にご連絡ください。詳しくはお知らせをご参照ください。

甲南大学心理臨床カウンセリングルーム・アートグループ事業 2012・2013 ちらし

甲南大学心理臨床カウンセリングルーム・アートグループ事業

アートで創造的な時間を!

テクノロジーの発達に伴い、生活が無機的な色彩をますます帯びていく昨今、手仕事のよさが見直されてきています。
静かな空間でシンプルな画材を使って何かを描いてみる、つくってみる、表現してみる…
自分の中のアーティストな部分を生かせれば、思わぬ驚きや楽しみが生まれるかもしれません。
スタッフや他の参加者と一緒にアートをしてみませんか。

- ★ 少人数制のグループで、対人関係やコミュニケーションに自信がなくても安心して参加できます。
- ★ アートの経験が少なくても大丈夫です。
- ★ 画材や材料の用意は主催者側でいたします。
- ★ 原則として毎回違う課題に挑戦します。
  …水彩、水墨、アロマキャンドル作り、コラージュ、羊毛フェルトアート etc.

日時：第 2・4 木曜日　13 時～15 時
前期（4 月～7 月）、後期（10 月～1 月）　各 8 回
対象：大人（高校生については要相談）
費用：参加費 1000 円／1 回、材料費（0～300 円程度）
スタッフ：　椋田　三佳　（画家、専門は水墨画）
　　内藤　あかね（ルーム相談員）

<お申し込み・お問い合わせ>

お申し込み・お問い合わせは随時受け付けています。
まずは甲南大学心理臨床カウンセリングルームまでお電話ください。
電話：(078) 453-6183（10 時～17 時）
所在地：神戸市東灘区岡本 7-12-22
＊心身の状態が著しく不安定な方は、グループの性質上、参加をお断りすることがありますので、あらかじめご了承ください。

2013年甲南大学心理臨床カウンセリングルーム・アートグループ事業

アートで創造的な時間を!

テクノロジーの発達に伴い、生活が無機的な色彩をますます帯びていく昨今、手仕事のよさが見直されてきています。
静かな空間でシンプルな画材を使って何かを描いてみる、つくってみる、表現してみる…
自分の中のアーティストな部分を生かせれば、思わぬ驚きや楽しみが生まれるかもしれません。
スタッフや他の参加者と一緒にアートをしてみませんか。

- ★ 少人数制のグループで、対人関係やコミュニケーションに自信がなくても安心して参加できます。
- ★ アートの経験が少なくても大丈夫です。
- ★ 画材や材料の用意は主催者側でいたします。
- ★ 原則として毎回違う課題に挑戦します。
  …水彩、水墨、アロマキャンドル作り、コラージュ、羊毛フェルトアート etc.

日時：第2・4木曜日　13時～15時
前期（4月～7月）全8回、後期はあらためて告知します
対象：大人（高校生については要相談）
費用：参加費 1000円／1回
材料費（内容に応じて0～300円程度）
スタッフ：　椋田　三佳　（画家、専門は水墨画）
　　内藤　あかね（ルーム相談員）

<お申し込み・お問い合わせ>

お申し込み・お問い合わせは随時受け付けています。
まずは甲南大学心理臨床カウンセリングルームまでお電話ください。

電話：(078)453-6183（10時～17時）
所在地：神戸市東灘区岡本7-12-22

＊心身の状態が著しく不安定な方は、グループの性質上、参加をお断りすることがありますので、あらかじめご了承ください。